

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会本部会の概要

| | |
|---------|---|
| 回数（作成課） | 第2回本部会（教育政策室） |
| 日時 | 令和7年1月20日（月） 18時15分～20時00分 |
| 場所 | 武蔵浦和コミュニティセンター 第8・9集会室 |
| 出席者 | 内谷中学校長、浦和別所小学校長、西浦和小学校長、辻小学校長、沼影小学校長 浦和大里小学校長 家庭からの参加者2名 地域からの参加者5名 日本体育大学教授（学識経験者） 教育長、副教育長、管理部長、学校教育部長、生涯学習部長、管理部参事、学校教育 部次長、教育政策室長 |
| 議事 | 1 各ワーキンググループについての報告 （1）各ワーキンググループの開催状況 （2）校名・移行イベントワーキンググループ （3）通学区域ワーキンググループ 2 意見交換「未来の姿」について （1）「スケジュール案」「アンケート調査の実施要領案」「アンケート案」 （2）「動画の作成方針案」「各動画のコンテンツ案」 3 その他 |

○ 教育長挨拶

新年の挨拶と第1回の本部会で活発なご意見等をいただいたことへの謝意を伝え、義務教育学校をよりよいものにするために、参加者の皆様方と丁寧に熟議を行いたいという思いを伝えた。

1 各ワーキンググループについての報告

（1）各ワーキンググループの開催状況

（教育政策室長からの説明）

各ワーキンググループにおいて検討内容とスケジュールが確認されたことや、意見交換の様子について説明した。

（2）校名・移行イベントワーキンググループ

（教育政策室長からの説明）

校名・移行イベントワーキンググループの実施状況（公募内容や選定基準等）及び意見交換の概要と今後の校名の絞り込みのプロセスについて説明した。

（3）通学区域ワーキンググループ

（学事課長からの説明）

第1回通学区域ワーキンググループで説明した内容や出された意見を報告した。

（参加者からの主な質問・意見）

○校名・移行イベントワーキンググループについて、集まった校名案の絞り込みは、多数決で決めるのか。

→教育政策室長からの回答

多数決ではない。校名・移行イベントワーキンググループの中で評価基準に照らして絞り込む。
○未来の姿についてアンケート調査する中で、設計時のコンセプトをどう生かすのか伝えてほしい。
義務教育学校が、何をもって日本一にしていくのかが見えると、学校の未来像のイメージがわく。

→教育政策室長からの回答

設計については、アンケートに答えやすくなるよう、説明に加える内容等があるか検討する。
○教育長より

日本一の教育都市として、日本一幸せな子どもを育てるという目標は、義務教育学校のみならず、本市の全ての子どもたちにそうなってもらいたいと考えている。この義務教育学校もその一つではあるが、ここだから特別ということではない。まずは、皆さんに、どんな義務教育学校を「地域の宝」として作っていききたいか話し合ってもらいたい。

○資料の地図で、C3は義務教育学校の学区に入らないように見えるが、入るという理解でいいか。
→学事課長からの回答

地図上のC3は、義務教育学校の通学区域になる案である。

2 意見交換「未来の姿」について

(1)「スケジュール案」「アンケート調査の実施要領案」「アンケート案」

(管理部参事から以下の内容で説明)

- ・グループ内協議での意見交換の方法
- ・「未来の姿」策定の目的やこれまでの経緯、及び今後のスケジュールと活用方法、実施方法

【A、B、Cの3グループに分かれて協議】

(2)「動画の作成方針案」「各動画のコンテンツ案」

(管理部参事から以下の内容で説明)

- ・動画の作成方針
- ・各動画の内容紹介

【動画視聴】

【A、B、Cの3グループでグループ協議】

(沼影小学校長から以下の内容でAグループの協議内容を発表)

【スケジュール案について】

○これからの学びが変わっていくという理解を回答してもらおうとよい。

【アンケート調査の実施要領案、アンケート案について】

○沼影校舎のイメージが強く、1～4年生までの学びのイメージがつかないかもしれない。

○校長が地域のイベント等に参加した時に、アンケート実施について周知することもできる。

【動画の作成方針案と各動画のコンテンツ案について】

○コンパクトにまとまっていてとてもよい。

○動画を見れば、イメージを持ってアンケートに取り組める。

○義務教育学校の説明は、子ども向けと大人向けがあってもいい。

○資料の絵について、5～9年生が通う沼影校舎について、ランドセルの児童が多く、中学生のイメージがややわきにくい。

○説明を聞くと、学校への出入りがこれまでより自由になる印象を受ける。地域と学校の関係の表し方について、再考した方が良い。

(内谷中学校長から以下の内容でBグループの協議内容を発表)

【スケジュール案について】

○アンケートを実施して、「未来の姿」の素案をつくる流れはとても良い。一方、その流れが、「未来の姿」を共有し、校名の公募やカリキュラム等の検討を開始するワーキンググループとどうリンクするのか、可視化できるスケジュールが良い。

【アンケート調査の実施要領案、アンケート案について】

○動画を見てからアンケートを実施した方が良い。

○地域の歴史を知った上で、回答することが大事。

○小中一貫教育はイメージしづらいので、学校の特色ある教育課程を動画で紹介されると、小学生や新しく地域に越してきた方でも、学校のイメージを具体化できる。

【動画の作成方針案と各動画のコンテンツ案について】

○動画のコンセプトとプロットはとても良い。教育活動の様子や説明、イラストも分かりやすい。

○児童生徒数等、規模感が同じ義務教育学校の例も、可能であればコンテンツに入ると良い。

○歴史の動画が長く感じた。もう少しポイントを押さえたほうがいい。動画の最初の方を短くして、各学校の変遷に入るところから、詳しいコンテンツにした方が良い。

○学びと安全の新しい機能について、施設面のスライドが少なく分かりづらい。

○地域の方にとって、学校が、生涯学習の拠点になるということが分かるコンテンツがあると良い。

(浦和大里小学校長から以下の内容でCグループの協議内容を発表)

【スケジュール案について】

○「未来の姿」が、様々な場面で決定の拠り所になるということはとても良い。

【アンケート調査の実施要領案、アンケート案について】

○未就学児の保護者や卒業生等、地域の方にも広く取ることはとても良い。

○アンケートの対象が幅広いので、集約の仕方が難しいのではないかと。

○フリーワードでの回答は、小学校の低学年には難しい。項目に○をつける方が、アンケートのねらいに沿った意見が集まる方法もある。

○児童生徒へは、開校時の夢の学校について尋ね、そうでない方には、10年後の姿を尋ねている。どちらかにした方がよい。

○ホームページにも動画を入れて、常に確認できるようにすると良い。

○児童生徒について、学校で取り組むのか、持ち帰らせて家庭に任せるのかによって、回答の内容も変わる。

【動画の作成方針案と各動画のコンテンツ案について】

○特に歴史編は、私たちの学校という意識がすごく高まる。

○義務教育学校は、文字での説明を減らし、イメージが膨らむようなアプローチが必要。

○例示した義務教育学校と本市の義務教育学校では、規模感が違うところが気になった。

○義務教育学校のメリット、デメリットを知りたい。

○新校舎の施設について、説明を受けて、色々なことができるというイメージがわいたので、もう少

し詳しく知りたい。

- 小学校の低学年には難しいので、低学年向けの動画を作成しても良いのではないか。
- 教師用に、説明を補足するスライドがあると良い。また、字幕があると良い。
- スマホで見る場面もあるので、音質が心配である。
- コンセプトが決まった後も、動画で説明があると良い。

(学識経験者からのコメント)

話し合いで、新しい学校の拠り所となるイメージがたくさん出ると良い。今後、校名やカリキュラムを作る際に、目指す学校像、目指す子ども像が見えてくる。同じ武蔵浦和地区内にある学校でも、それぞれ文化は違うし、その違いは大事なことでもある。地区内の特色ある学校が、力を合わせて新しい学校を作ったときに、「どんな学校ができるだろう」「小学校6年間と中学校3年間をつないだときに、どういう学びが生まれてくるだろう」ということを考えながら、アンケートの項目を工夫すると良い。「どんな学校がいいのか」と尋ねた時の答えは、目指す子ども像や目指す大人の学びの像、あるいは学校の機能を指すもの、もしくは、そこで働く先生の姿や保護者同士の交流の在り方など、広く概念として出される。発表の中で、プレ調査を実施し、アンケート項目を整理したらどうかという意見もあった。本部会のメンバーから「どんな学校がいいのか」という意見を寄せてもらえば、それだけでもカテゴリズができる。アンケートの問いを、もう少しブレイクダウンする(分けて落とし込む)と良い。アンケートでは、どんな答えが返ってくるか、ある程度見積もりを立てていないと、まとめることが難しい。本部会のアイデアを集めて、それを整理する。動画も、各学校の特色を紹介するものがあるといい。